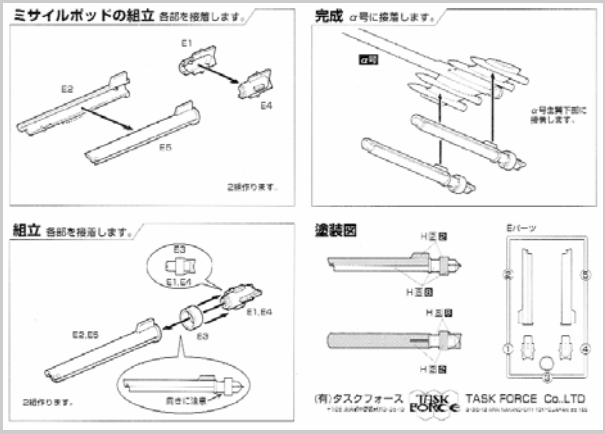
第42回　ウルトラホーク1号+ミサイルポッド（タスクフォース）の巻

合体する飛行機の代表選手として多くの男児に認識されている（であろう）ウルトラホーク1号は地球防衛軍ウルトラ警備隊の大型万能戦闘機です。通常は合体した状態で、状況に応じてアルファ号・ベータ号・ガンマ号の3機に分離（有人飛行）して運用されます。アルファ号はロッキードF－104を彷彿とさせる細長い機首とT字型の垂直尾翼を持ち、ベータ号はデルタ翼機、ガンマ号は無尾翼機とでも呼ぶべき特異な形状をしていることから、この機体の活躍する近未来においては**飛行させる為の高度な科学技術が発達している**ことは疑い有りません（その辺りはこの本で楽しませて貰いました）。

ホーク1号のプラモデルに関しては放映当時にマルサンやブルマークから発売されていたらしいのですが不勉強故詳細は不明です。それらのキットは今日では入手が極めて困難であり**コレクターズアイテムとして高値で取引**されています。もっとも、仮に入手できたとしても満足できるレベルの立体ではないだろうと思われます。当時のキャラクターモデルはゼンマイ等の動力で走らせるようになっていたり、子供が怪我したり壊したりしないように**太く頑丈にディフォルメされているのが常**でしたから。

時は移り怪獣ブームのお陰もあって、1980年代から90年代にかけて**立体として満足できる**ホーク1号のキャスト（レジン）キットが何点か発売されました（例）。それらは確かに正確・精密ではありましたが例外なく高価であり（画像のものは今世紀になってから**ワゴンセールにてゲット**）、また重いので気軽に**「キーン」「ドドド」と遊べるような代物ではなかった**のです。



その様な状況の中、今回取り上げたタスクフォースのプラモデルが発売されました。**本物の撮影用ブロップ（ミニチュア）を保管**しておられるプロモデラーの千草巽氏（ネット上でお世話になっております）の設計により劇中そのままのスマートな姿が繊細・精密再現されており、最大の特徴である**分離合体も勿論可能**です（プラ製なので軽くて丈夫!!）。最初ホーク1号のみで発売（定価1600円）され3機程購入しましたが、後に今回取り上げているミサイルポッドが付属したものも併せて販売されるようになりました。ミサイルポット自体は左右共通であり、同じランナーが2枚同梱により**コストが抑え**

キットデータ	
メーカー	タスクフォース
スケール	1／144
当時価格	2500円（税抜）

られています。また、ポッドはアルファ号に接着するようになっており、分離合体を妨げません。ということは、このキットが有れば「ノンマルトの使者」の一場面、「アルファ号を捨てよう」のシーンが再現できる訳です。前述の文献によれば1機1500億円もするのでもったいないおばけが出そうですが（笑）